

2024年2月市議会通常会議 補正予算 討論

林 まり

私は日本共産党大津市会議員団を代表し、只今議題となっております

議案第 56 号 令和5年度大津市一般会計補正予算(第8号)について、反対の立場から討論いたします。

本補正予算の決算を見越した事業費の補正には、将来の財政需要に備えた財政調整基金の積み立て、7億8千万円が含まれます。これは、来年度に開催予定の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催経費の本市負担分に備えた積み立てを行うものであり、これにより財政調整基金の令和5年度末の基金残高は約105億円に膨らむ見込みです。財政調整基金は、2018年度末には33億7千万円でしたが、その後税収の増加などから毎年積み増し、わずか5年間で3倍以上になります。

一方で、本補正予算には、被保護者の増加から生活保護費の支給増に伴う補正も計上されています。昨年1月からコロナ禍で借りた特例貸付金の償還も始まり、今月14日に滋賀県社会福祉協議会が公表した貸付金利用世帯への生活実態調査においても、8割以上が今後の返済に不安を抱えていることが明らかになっています。物価の高騰はとどまることを知らず暮らしを直撃し、市内でも格差の広がりから二極化が進んでいます。今、暮らしや生業の困難に直面している市民を支えるための事業にこそ十分な予算を措置すべきであり、優先すべきは将来に備える更なる基金の積み立てではないと考えるものです。

また、なぎさ公園市民プラザ再整備にかかる費用として、市民プラザの工事を進める中で確認された地中に埋めた直径30センチ、長さ14メートルの杭16本などの撤去費用約1,700万円が含まれます。約30年前に工事委託されたもので図面に記載がなかったことを理由とされています。維持管理が必要な重要構造物の図面については、保存期間の見直しも含め将来を見据えた保管及び管理を求めます。

以上を指摘し、反対討論といたします。